

1. 教育の責任

服飾文化専攻では、家政学の体系を理解するとともに、特にその中の被服分野に関する高度な専門知識を修得するとともに、衣料管理士資格を取得することを基本目標として、多様な実験・実習を通して、服飾産業での商品企画・基礎研究・製造・流通などに力を発揮できる人材育成をめざした教育課程を編成している。その中で、私は一般社団法人日本衣料管理協会が認定する衣料管理士(2級)の資格に関する「被服材料」および「整理・加工」に分類される科目の一部を担当している。主な担当科目は以下の表に示す。

○服飾文化専攻専門科目

科目		開講時期	単位数	卒業必修
被服材料・ 加工・整理	被服繊維学実験	1年後期	1	○
	被服材料学実験	2年前期	1	○
	被服整理学実験	2年後期	1	○
	染色加工学	2年後期	2	
	染色加工学実験	3年前期	1	
専門研究 I		3年通年	4	○

2. 教育理念

本学の教育の基本理念は、“美しい人間生活の在り方を総合的見地から科学的に考え、解決していくことのできる確かな実践力を備える人材の教育に当たる”である。この理念は、時を経ても十分に適応する理念であり、目まぐるしく変化する社会に対して問題解決能力を備えることは生きていく上で重要であると考えられる。したがって、私は、この基本理念をベースとしてさらに、“人間生活における実践的な知識から専門的で高度な知識までを楽しく主体的に学び、自らの個性を活かすことで、これからの社会で活躍できる人材の育成”を教育理念として教育研究活動を行っている。その理念の実現に向けて、以下の方針を定め、実践している。

方針 1. 服飾分野に関する基礎知識を定着させる。さらに、専門的な知識は実生活と関連付けることを意識して教える。

方針 2. 実験科目を通して、論理的思考や倫理観および得られた結果から分析・応用する技術を身につけさせる。

方針 3. 問題解決能力を養うために、問題発見、解決手段の模索方法などを身につけさせる。

3. 方法

○講義科目では、パワーポイントの映写と配布資料での授業を実施している。配布資料は重要な箇所を空欄にすることで、授業中に学生が手書きで記入することにより理解度の向上を図っている。また、授業が一方的かつ自己満足にならないように学生への質問の投げかけを必ず行っている。もちろん、授業内

容に関して学生からの質問の有無についても確認を行っている。さらに、口頭での質問が苦手な学生に対して、毎回行う小テストでわからなかった箇所や質問を記入できる欄を設けて対応を行っている。

○講義科目の最後には、その日に行った内容についての理解度を確認するために小テストを毎講義行っている。小テストは採点し、次回に返却する。小テストで理解度が低かった内容に対して、講義の冒頭で復習を行い、フィードバックをするようにしている。

○講義科目では、実例を紹介してグループで問題を解決するための策を練る時間を取っている。

○実験科目では、実験の手引きを作成し、学生に第 1 回目の授業で配布している。手引書には、シラバス・実験日程・実験項目・目的・方法・関連情報・レポートおよびノートを作成方法・考察のポイント・成績評価ルーブリックを記載している。さらに、理解をさらに深めたい学生に対して、Google forms で実験項目ごとにテストを作成し、そのリンクに移動するための QR コードを貼り付けている。

○実験科目では、項目ごとにレポートを課する。レポートの添削を行ったうえで、さらなる向上のためのアドバイスを学生に個別に行っている。1、2 年間実験レポートを添削していると、飛躍的にレポートの質や書き方が変化する時が訪れることが多々ある。その瞬間にすかさず学生を褒めることを心掛けている。

○実験科目では、物事を倫理的に考察する力を養うために、各班で異なる条件を設定して複数の数値を共有することにより、学生が主として考える時間を取っている。

○授業に限らず、質問がある場合には真摯に対応している。

4. 成果

(1) 学生の授業評価

令和 6 年度の実施した学生による結果を以下に示す。すべての科目で 4.75 以上とおおむね高い評価を得ている。また、「わかりやすかった。」「たのしい実験でした。」とのコメントが寄せられた。

担当科目名	回答率(%)	開講時期	総合評価
被服繊維学実験	94.4	1 年後期	4.75
被服学材料実験	100.0	2 年前期	4.94
被服整理学実験	86.7	2 年後期	4.86
染色加工学	92.3	2 年後期	4.83
染色加工学実験	90.9	3 年前期	4.84

(2) レポートの質の向上

1 年後期からレポート作成の方法や体裁についての指導、さらにレポートの質の向上のためのアドバイスを繰り返し行った結果、飛躍的にレポートの質が向上する学生が数名認められた。自ら参考書やインターネットを通して情報収集を行い、論理的に考察できるように変化してきている。自身でも変化に気付き、自信を持ってレポート作成に取り組んでいる様子が窺える。

5. 教育の改善点と今後の目標

(1) 教育の改善点

学生による授業評価において「レポートの提出に関してのレポートを印刷する際に金銭がかかるのでメールで対応してほしい」とのコメントが寄せられた。レポートに関しては個別にアドバイスして返却

し、手書きで訂正した上で、再提出を求めている。メールでのやり取りになると、学生が理解しているかどうかをその場で確認することができず、再提出を求めることが難しい。紙媒体ではコストもかかると思われるが、この形式は変えずに実験室に印刷機の導入を検討することで改善することを考えている。

伝えたい知識が多くあり、一部の学生が理解できていないと感じるところもあるので、何をこの授業で理解してもらいたいかを明確にし、筋の通った授業を展開できるように内容を見直すことで改善する。

(2)今後の目標

本学では、被服素材の基礎となっている化学を苦手とする学生が入学する場合がある。しかし、1年前期から化学の知識を必要とする被服繊維学を受講しなければならない。したがって、化学における基礎知識の差を埋められるようにより丁寧な指導にあたりたいと考えている。

短期目標として、教育の質を向上させるために、教育に関する研究会に積極的に参加する、他大学のFD研修会に参加することが挙げられる。

長期目標として、さらなる教育の経験を積むこと、その経験を通してフィードバックを欠かさずに行うことで、教育理念を達成できるようにする。